



地域活躍人材育成プログラム 「三田スモカモス・プロジェクト2021」

Workshop/01

キックオフ

参加学生たちが初対面！互いを知ることから始め、活動体験先を決めるためのワークをしました



Mission/01

※活動体験の様子は6-7頁

市内企業での活動体験

最大5日間。市内で活躍している人や企業を知り、活動体験の受け入れ企業から提供されるミッションにチャレンジしました



Workshop/02

活動体験報告

活動体験での気づき & 学びの共有、自己理解のワーク

Workshop/03

ライフプランを考える

「どんな自分でありたい?」「どんな生き方をしたい?」気づきをさらに発展させ、自分の将来イメージを具体的に描きました



What's?!

「スモカモス」

よりよい未来に向けて地域や自分を醸成する「醸す(カモス)」と、そんないきいき活躍できるまちに「住もうよ(スモ)」を併せたプロジェクト名です。

Workshop/04

アクションプランを考える

具体的に「これから自分が取り組みたいこと」を検討！成果発表に向けても準備



Mission/02

成果発表会

アクションプランを発表！6人のコメンテーターからフィードバックをもらいました



Workshop/05

リフレクション(振り返り)

約半年間の学びを整理。今後の日常生活やアクションプランにつなげます



— 特集 — まちを舞台に活躍しよう！学生×市内企業で課題解決

三田に「^す住まう」、未来を「^{かも}醸す」

「大人になったら三田を出て都会に行く——」20歳代の転出超過が続いている。その数毎年1千人。進学や就職を機に三田を離れるという選択肢を持つことは現実として多く、決してそれが悪いわけでもない。残念なのは、「地域の中で育まれた経験」を持たないまま、三田の魅力を知る前にふるさとを離れてしまうということ。

「三田っていいまちだな。ずっと三田と関わってみたい。ここでチャレンジしたい！」と思えるかどうかは、三田のまちにどれだけ愛着があるか、まちの中に心を通わせた人がいるかなど、まちでの経験によって決まってくる。市内にいる学生や若者が「三田に残る」「関わり続ける」として離れてもまた「戻ってくる」という選択肢を持つために——そんな背景から三田出身の若者が自ら企画して始まった地域活躍人材育成プログラム、その名も「三田スモカモス・プロジェクト」。三田で住まう、自分の未来を醸すために、三田をフィールドに「できること」を発見し、自身の「在り方・生き方」を深める。

本特集では、「三田スモカモス・プロジェクト2021」を通して、市内で活動する多様な世代の人や企業と接点を持ち、三田を舞台に経験を積み重ねて成長していく学生たちの姿を紹介します。

(595041 FAX 5631366)

Check!

三田市内在住・在学の学生の皆さんへ！

三田・学生メールマガジンに登録を！

三田の魅力やイベント情報などを届けるメールマガジンを配信しています。「もっと三田のことが知りたい」、「学生向けのイベント情報が欲しい」そんな学生さんはぜひご登録ください！



「こみんか学生拠点」

集まり、出会い、活動が生まれるみんなの拠点。学生やそれ以外のいろいろな人に出会ったり、地域と関われるきっかけも！(中町7-39)



学生・若者のチャレンジを全力で応援します！気軽に相談してください☆



▲若者のまちづくり課職員

スモカモス 活動体験

Interview | 「活動体験での学び、自分の中での変化」を参加学生に聞きました

Interview | 活動体験受け入れ事業者に聞きました

参加学生が地域や市内事業者とつながったり、事業者が抱える課題をミッションとして解決を考える「活動体験」。市内事業者の協力を得て、最大5日間の活動を行った。アルバイトでもなければ、インターンシップとも違う。どんな活動・体験をしたのか、どんな気づきがあったのか迫ります。



Natsuko Okuda
奥田夏子さん (高平地区)
関西学院大学3回生

Mission 地域の活動量を上げる



Hyuga Kojin
荒神陽向さん (西宮市)
関西学院大学3回生

Mission オンラインショップサイトの立ち上げ



Yumi Terahigashi
寺東結実さん (三田地区)
関西学院大学3回生

Mission 若者の防災意識を高める



Asuka Okada
岡田明日花さん (広野地区)
甲南女子大学4回生

Mission 集客につながるイベントの企画

そのほかの 活動体験先

■ アーシング Earthink株式会社

■ あまくぼ農園



消費者・学生目線でのアイデア

■ アンバイ UNBY株式会社



ロケーションを生かした環境問題へのアプローチを考える

■ 株式会社エヌプラスケア

■ オフィス キャンパス OFFICE CAMPUS

■ 神戸三田アウトドア テミル ビレッジTEMIL

■ NPO法人 さとのやまが 里野山家



里山活動の発信力を高める

■ (一社) 三田市観光協会

■ 新有馬開発株式会社

地域に関わる学生や若い人を増やしたい

地元高平で寺子屋の講師をしています。大学の授業でスモカモスを知り、「高平だけでなく三田市全体に範囲を広げて活動してみたい」と思い、参加。寺子屋での活動やスモカモスに参加する中で「地域に関わる同じ世代の仲間を増やすにはどうしたらいいだろう」と考えるように。活動体験では、自分の想いを言葉にして整理し、人に伝えることが、誰かの心を動かし、行動につながることもあると教えてもらいました。スモカモスを通して自分自身とゆっくり向き合うことができ、ここに集った同年代の学生と語り合った時間や交流は大切な経験となりました。



学んできたことをどれだけ使えるか。腕試し

生まれも育ちも市外ですが、中学から三田市内の学校に通っています。大学ではITなど情報系を学び、ボランティアサークルに所属。「もっと活動の場を広げたい」「自分の学んできたことがどれだけ社会で使えるだろう」と思い、参加しました。今回初めてながしお農場を訪れて「三田にこんな遊び場もあるんだ!」と驚きました。活動の中では、永塩さんからサイトの立ち上げを相談され、自分の学んできたことを生かしたことが嬉しかったです。サイトは誰でも簡単に運用できることを第一に考えて制作しました。三田を知ってもらうきっかけの一つですが、サイトを見て実際に三田を訪れる人が増えれば嬉しいです。



◀ 活動体験の中で立ち上げたウェブサイト「ながしお農場のオンラインショップ」

家がある場所から「意味のあるまち」へ

「面白そう!」広報さんを見て応募。防災に関心があり、消防車を製造する工場や消防署を見学させていただきました。「三田を災害に強いまちにしたい」想いは強くなり、スモカモスをきっかけに消防団にも入団。大学生の私が防災について同世代に伝えていく、その「役割」を見つけられたことが参加した大きな意味となりました。参加前の私にとって三田はただ家がある場所。それが「意味のあるまち」に変わりました。三田市は学生のチャレンジを応援してくれるまち。さまざまな活動をする大人や仲間との出会いを生かし、チャレンジすることで世界が広がっています!



自分にもできることがある。自信に

「生まれ育った三田でこれからは暮らし、働きたい」まずは三田をもっと知り、何かやってみたくて応募。地元野球チーム「兵庫ブレイバーズ」で活動体験をさせていただきました。野球の経験がなく、ルールすら分からない私にもできることは——高校から続けたチアリーディングが頭に浮かびました。コロナ禍で表現の場が減ってしまった母校・三田祥雲館高校のチアリーディング部に球場でのパフォーマンスを提案。4月2日の開幕戦で早速実現できました!三田でこれまでなかった新しいつながりをつくることができ、とても嬉しく、自分の自信にもつながりました。



(一社)ドキドキマーク
たの たつひのり
太野 達徳さん

奥田さんの活動や想いは注目に値すること。仲間を増やしていくために自分の言葉で発信してはどうかと背中を押しました。過去の経験や今後したいことを書き出したり、何時間も対話を積み重ね、一緒に整理していきました。スモカモスをきっかけに私が企画した移住ツアーに携わってくれたり、今でも気軽に相談をくれたりと、つながりが続いていることが嬉しいです。



神戸三田ながしお農場
ながしお たもつ
永塩 有さん

農園でもぎたてを味わい楽しんでいただくいちご狩りですが、コロナ禍の影響で集客は減少。どうやってお客さんに届けようかと模索していました。荒神さんは情報系が得意と聞き、オンラインショップサイトの立ち上げをお願いしたところ、あっという間に作ってくれました。このサイトがながしお農場や三田の魅力を知っていただく新たなきっかけになることを期待しています。



(株)モリタホールディングス
やまだ あきのり
山田 明知さん

「若者に防災を身近に感じてもらうには——地域防災の取り組みには若い人の視点や力が必要だと感じています。まさに寺東さんはそのきっかけになるような存在。「大学生を対象に防災イベントをしたいんです!企画書読んでください」「消防団に入団しました!」その熱い想いだけでなく、すぐに行動したり、挑戦する寺東さんの姿に私も大きな刺激をもらいました。



兵庫ブレイバーズ
かわさき だいすけ
川崎 大介さん

アメニスキッピースタジアムを野球だけでなく、みんなで使えるものにできればと思っていたところ、岡田さんからチアリーディングのパフォーマンスはどうかという提案を受けました。出演の調整も岡田さんと一緒だったので、スムーズに進めることができました。このように「何かやってみよう!」という若者の発想で今後も三田の可能性が広がればと思っています。

「何でも相談できるまちのお兄ちゃんになれたら」そう話すのは、スモカモス・プロジェクトを企画・運営する延岡由規さん、菊地凌輔さん、寺井俊裕さんの3人。ともに同じ高校で学んだのち、起業したり、海外で勤務したり、三田を離れてそれぞれの道を歩んできた。盆や正月に集まるといつも「三田で何か楽しいことしたいよな」と話をしていたが、具体的な行動に至るきっかけはなかった。

大きな転換期となったのは2020年。仕事で三田市役所を訪れる機会があった。「市役所の人と話していくうちに、出合いが広がっていったんです」その後、市主催のワークショップに3人で携わることに。「三田で何かしたい!」「もっとまちを盛り上げたい!」まちへの想いを抱く人がこんなにもいるんだ——三田の可能性を感じた。ワークショップを機に起業したり、市内でイベントをする人たちの姿を見て、「仕掛けや仕組みさえあれば、まちや人にこんなに変化を生むことができるんだ」と実感。それぞれ多様な本業を持つ3人だが、気付けば2カ月後には自分たちも法人を設立していた。

三田にはたくさんのお兄ちゃんがいる。

「次、こんなことをやってみてみたいです」と自ら動き始める学生たちの姿。彼らにとって三田が「自らの役割を果たせるまち」となるのに時間はかからなかった。「信頼して何でも話せる大人がまちの中にできました!」そう学生たちが話してくれたのが嬉しくて」と延岡さん。

活動体験を快く受け入れてくれた企業からも、「実はこんなことがやりたかったんだ。地元のお兄ちゃんたちが何かチャレンジしたいなら、力を貸すよ!」と心強い言葉をもらった。「学生や地域のことを思う大人がこんなに多いのかと驚きました。僕たちはそのつなぎ役として、これからも活動したいですね」と寺井さん。

「今回スモカモスでつながった学生や企業は三田の中のほんの一部。回を重ねる毎に層を厚くしていきたい

生まれ育った三田へ恩返しを——三田をフィールドに遊ぶ"まちのお兄ちゃん"に

しかし、就職や進学を機に多くの人が離れてしまう。「自分たちが大学生だった時、仕事を始めたときもそうだった」何かやってみたくても、地域を知らずとも、開かれた場所はなかった。まちの中に相談できる大人もいなかった。学生が「三田に残る」または「関わり続ける」という選択肢を持つには——そんな考えから誕生したのが「スモカモス・プロジェクト」だ。自分たちが学生だった時、「こんなのがあったらな」と思っていたことを少しずつカタチにしていきました「ヒントにしたのは中学生の職業体験「トライやる・ウィーク」。大学生が市内企業で活動体験をしたり、企業や地域の課題に対して、学生の興味があることや得意なことや解決に取り組み、三田のまちや人とのつながりができるはず。早速、学生や市内企業に声をかけて回った。そして、三田との関わりが広がっていき、三田の学生と三田を盛り上げたいと考える多くの企業が集まった。

参加した学生たちにとって、三田は住んでいる場所・学校がある場所。まちに関心はあっても具体的な役割はなかった。ワークショップや市内企業での活動体験を続けるうちに、「新しい活動を始めました!」

です。そして、スモカモスをプラットフォームしながら続けることで僕たち自身も三田の魅力にもっと気付いていきました、それに共感する学生を増やしたいです」と菊地さん。

「これからの時代、よく分からない事に答えを出すことも多いと思います。でも、分からないなりに解釈したり、そこに自分の役割や楽しみを見つけた経験が人生を豊かにするんじゃないかな——」

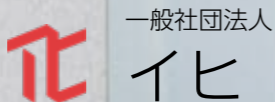
大学では学べないことやインターンシップでは体験できないこと。ここにしかない出合いがある。それがスモカモス・プロジェクト。「まずはやっている僕たちが楽しみたい!三田をフィールドに遊ぶまちのお兄ちゃん的な存在としての姿を見せたいですね」3人はさわやかな笑顔とともに三田の未来を描く。

皆さんにとって三田って?

「?」です。まだ定義がない。それぞれが自分のカラーを出しながら色付けできるまち

「暮らしを楽しめるまち」まちの中に自分の役割があるって幸せだなと思います

「自分の大切な人がいる大事な場所」だから自然と良くしたいって思います



一般社団法人
イビ
県立北摂三田高校卒の同級生3人が2021年4月に設立。「ふるさと自慢で溢れる世界をつくる」をビジョンに掲げ、①ふるさと活躍人材の育成 ②ふるさとの魅力発信 ③ふるさとコンテンツの開発に取り組む。



▲Instagram



▲Facebook



延岡 由規さん
Yuki Nobuoka



菊地 凌輔さん
Ryosuke Kikuchi



寺井 俊裕さん
Toshihiro Terai

参加者募集!

三田スモカモス・プロジェクト2021 活動報告会



スモカモス・プロジェクトってどんなことするの?

三田を盛り上げるために事業者として何かできないかな?



運営団体であるイビの皆さんによる、2021年度「三田スモカモス・プロジェクト」の活動報告会を開催!この企画が立ち上がった背景や実現したい未来とともに、参加した学生や受け入れ事業者の事例をお話しします。スモカモス・プロジェクトに参加したい学生や協力いただける事業者の皆さんは、ぜひご参加ください!

日時= 5月18日(水) 16時~17時

場所= オンライン開催

※ウェブ会議システム「Zoom」を使用
定員= 80人(多数の場合は、選考を実施する場合あり)

対象= ①三田市をフィールドに「何かやってみよう」という思いがある大学生年代 ②大学生年代の視点やアイデアを社内の課題解決につなげたい市内事業者 ※その他あり、詳細は市HPをご覧ください。

申し込み= 5月11日までに、市HPの申し込みフォーム(右記二次元コード)に必要事項を入力



問い合わせ= 若者のまちづくり課 (559-5041 FAX 563-1366 eメール wakamono_machi@city.sanda.lg.jp)

2022年度のプロジェクト参加学生・受け入れ事業者の募集は、5月末から行います(予定)